吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

提出日	令和6年　4月	
記入者	団体等名	美南小学校区子どもの体験活動実行委員会
	記入者名	福田　稔之
	部署名	吉川市教育委員会生涯学習課
	記入者名	尾花　香穂

1｜協働事業の概要

協働事業名	吉川市子どもの体験活動	
事業の実施者	団体等	美南小学校区子どもの体験活動実行委員会
	行　政	教育委員会生涯学習課
事業の目的及び目標値	家庭・地域・学校が一体となって子どもの生きる力を育むため、各小学校区に設置した実行委員会により体験活動等を企画し、子どもたちの奉仕活動や体験活動などを推進する。	
事業の内容	市内の子どもを対象とした事業目的に総活動を実施する団体（実行委員会）に対し、交付金を交付する。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	令和5年度実績 〇美南小学校区　8事業　　336名	
協働事業決算	総額　167，078円（うち市負担分　48，450円）	
	簡単な内訳	企画・会議費　　41，530円 子どもの活動費　122，853円 事務費　　2，965円
実施期間	令和5年4月1日　から　令和6年3月31日　まで	
協働の形態	□共催　□委託　☑補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和６年３月２９日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） **【団体⇒行政】** 活動の様子を見学（記録撮影）するため、事業当日に生涯学習課職員にも参加いただいた。 子どもたちの生き生きとした表情を見ることができ、良い体験の場を提供できたと思う。 **【行政⇒団体】** 美南小学校区以外の児童への周知、一部イベントのオンライン開催、他団体との共催により、児童が本事業に参加する機会を増やすことができた。活動の継続・拡大のために本事業について、一層の周知を図っていきたい。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【 団体 ・ 行政 】 引き続き協働し実施することで、子どもたちが楽しんで参加できるよう努める。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

3-2

提出日	令和6年　6月　11日	
記入者	団体等名	吉川市国際友好協会
	記入者名	会長　立澤　秀子　学習部会長　郭　育子
	部署名	市民参加推進課
	記入者名	星野　有香

1｜協働事業の概要

協働事業名	日本語教室	
事業の実施者	団体等	吉川市国際友好協会
	行　政	市民参加推進課
事業の目的及び目標値	日本語が話せない外国出身の方に、日本語をはじめ、日本の生活文化などを教えるとともに、参加者同士のコミュニケーションの場を提供し、多文化共生、異文化交流の推進を図る。	
事業の内容	主催：吉川市国際友好協会(スタッフ管理、教材・備品購入など) 共催：吉川市(施設予約、資料印刷、日本語教室ボランティアスタッフ養成講座の開催など) ボランティアスタッフが日本語で日本語を教える形式で実施。基本的に学習者とスタッフが1対1で生活に必要な日本語を学ぶ。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	①日本語教室(おあしす) 毎週火曜日　午前の部(10時～12時) 第二、第四火曜日　夜間の部(19時～21時) ・年間46回実施(午前の部) 年間24回実施(夜間の部) ・参加者延べ人数 午前の部　学習者　211人、スタッフ　340人 夜間の部　学習者　130人、スタッフ　127人 合計　学習者　341人、スタッフ　467人	②日本語教室(吉川美南) 第二、第四土曜日　(14時～16時) ・年間　24回実施 ・参加者延べ人数 学習者　76人、スタッフ　87人 合計　学習者　76人、スタッフ　87人
協働事業決算	総額　77,431　円（うち市負担分　77,431　円）	
	簡単な内訳	支出　77,431　円 （　教室用　教材テキスト書籍　ホワイトボード等文具備品　） ※市から吉川市国際友好協会への補助金55万円 うち日本語教室への補助率10/10、　77,431　円補助
実施期間	2023年　4月　1日　から　2024年　3月　31日　まで	
協働の形態	☑共催　□委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	○	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	○	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	○	○
4	情報共有やコミュニケーションは図られましたか。	○	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	○	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	○	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	○	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	○	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	○	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	○	○

③ふり返り段階

話し合いをした日：　令和６年５月２６日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	○	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） **【団体⇒行政】** 日本語教室の活動の他にスタッフミーティング等にも場所の予約が必要になった場合は、変則な場合おいても臨機応変に部屋の変更など協力いただき市民活動を中断なしでスムーズに継続できた。 今年度は、おあしすの工事の影響も活動にあったが、ほぼ計画通り実行できた。 **【行政⇒団体】** ・スタッフが少ない中にも関わらず、昨年度に引き続き、午前の部の教室を毎週開催していることや、日本語教室の後にスタッフミーティングを開催し、日本語教室がさらに良くなるよう話し合い時間を作るなど、スタッフの熱意と行動に感謝している。 ・ボランティアスタッフの人数不足の課題が出てきているので、新しいボランティアがまずは増えていくように周知に力を入れていきたい。		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【 団体 ・ 行政 】 昨年度も課題として出されていた、学習者数などを含む事業実施報告書（紙）デジタル化についてとSNS版の導入（教室案内及びタイムリーな活動の告知）の2点引き続き具体案が示されるのを期待する。		

吉川市協働事業評価シート_2021.ver1.3

3-3

提出日	R6年　6月　24日	
記入者	団体等名	吉川市国際友好協会
	記入者名	会長　立澤　秀子　郭　育子
	部署名	学校教育課
	記入者名	松岡　伸悟

1｜協働事業の概要

協働事業名	外国人児童生徒への日本語学習支援	
事業の実施者	団体等	吉川市国際友好協会
	行　政	学校教育課
事業の目的及び目標値	市内小・中学校に就学する外国籍児童・生徒のうち、日本語の理解力が不足しているために、円滑な学校生活を送ることが困難な児童・生徒に対して個別に日本語学習支援を行うことで、円滑な学校生活を送るとともに、学力の向上を図る。	
事業の内容	・諸外国から入国（転入）し、市内小・中学校へ就学した児童・生徒のうち、日本語の理解力が不足していると認められる場合に、学校長からの申請に基づき、市教育委員会（学校教育課）が日本語学習支援業務の委託先である吉川市国際友好協会へ支援活動を依頼する。 ・吉川市国際友好協会は、支援対象児童・生徒、学校等と調整の上、支援活動担当者、活動日等を決定し、市教育委員会及び学校へ通知し、活動を開始する。	
事業の実績（実施回数、参加者数など）	対象となる児童生徒　23人	
協働事業決算	総額626，000円　（うち市費負担分626，000円）	
	簡単な内訳	活動単位　一時限　小学校45分、中学校50分 一時限あたりの委託料　1，000円
実施期間	令和5年5月9日　から　令和6年3月22日　まで	
協働の形態	□共催　☑委託　□補助	

2｜協働プロセス評価（自己評価・相互評価）

この検証シートは、協働事業実施に伴う各ステップで、必要なことができていたかどうかを振り返りながら、次の協働事業へ活かすため、相互の視点から評価を行うものです。

なおこのシートは団体等・行政で話し合い、1枚のシートを作成してください。（○・△・×のうちいずれか）

①事業計画段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	目的や目標は、事前に共有できましたか。	△	○
2	相手の立場や特性を理解し、事業に臨めましたか。	△	○
3	事業計画等は相互に協議し合意の上、決定しましたか。	△	○
4	情報共有やコミュニケ―ションは図られましたか。	△	○
5	相互の特性を活かした役割分担を行えましたか。	△	○

②事業実施段階

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	お互いの役割を果たすことができましたか。	△	○
2	進捗状況や事業に関する情報共有はできましたか。	△	○
3	計画通りに事業の実施ができましたか。	△	○
4	計画等の修正は、相互協議し合意の上で行いましたか。	△	○
5	課題発生時はお互いに協議し柔軟に対応できましたか。	△	○

③ふり返り段階　　話し合いをした日：令和６年６月２４日

No	ふりかえり項目	団体等	行政
1	事業報告書など、成果等が受益者に見えるような報告書などは作成しましたか。	○	○
2	事業の目的・目標は達成できましたか。	△	○
3	この事業は協働で行う必要がありましたか。	○	○
4	協働して実施することで相乗効果が得られましたか。	○	○
5	事業を振り返り、それぞれの立場からどのような良かった点や課題（共有・認識の差等）を相手へ伝えましたか。（記述式） 【団体⇒行政】 来日直後学校を日本語ゼロスタートの児童生徒について応急的な短期集中型（週１以上）「初期指導」の緊急性と重要性の課題がある事を伝えた。学校教育課から前年度とは違う新たな体制や制限（基本週1）の説明は話されたが、こちらからの現場の観点で充分な話し合いの場が設けられる事がなく過ぎた。 【行政⇒団体】 活動報告書により団体と学校間での情報の共有は図られている。より一層の綿密な連携が望ましい		
6	上記課題を踏まえ、次年度の協働事業に繋ぐため、どのような改善策を話し合いましたか。（記述式） 記入者【　団体　・　行政　】 【団体】 「初期指導」の重要性を今回再び話し合い優先度を決めて支援時間を割り振る改善策を今年度は試してゆく共通目標を入れた話し合いができた。県費の教員との協働や最低限のダブル支援の情報共有も課題として数年出している。県費教員による支援とYIFAの支援を吉川市全体としてとらえ学校教育課が主導で支援のニーズの現状を包括的に把握していただきたい。次年度の体制を予算の見込みも含め正確に実行するには現場の各学校とはもちろん委員会との更なる情報交換と計画的な共通目標の設定が必須となる。 【行政】 教職員に対しても本事業の意図を理解してもらう。 引き続き、国際友好協会、学校、市教育委員会間で必要に応じた連携を図れるようにする。		